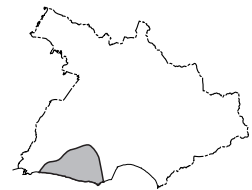


4 七里ガ浜地域 地域別方針

目標における網掛け部分と具体的な取り組みにおける太字部分は平成16年度に追加・修正した部分です。
また★印は重点的に取り組む内容です。



まちづくりの基本的考え方

- 七里ガ浜の海浜と広町・鎌倉山・極楽寺の山々の緑が一体となり多様な生物と共生した、豊かな環境づくり、そこに調和したまち並みをつくる。
- 生活者を大切にした交通整備を基盤とする、暮らしやすいまちをつくる。
- 緊急の際にも対応できる施設の充実とソフトの仕組みづくり、毎日の生活の中の文化活動の拠点となる施設づくりを考える。

目標

目標①

周辺地域との連絡をスムーズにし、安全を確保できる道づくり（歩行者・防災）

①国道134号は、市民生活を支える幹線道路として周辺環境に配慮し、住宅地と海浜とを隔てることのない交通管理・整備の道を探る

②住宅地内の道路は、安全を確保できる道づくりを進める（歩きやすい環境・防災・救急）

③生活道路の連絡路として周辺地域との道路ネットワークを充実させる

④高齢者や障害者など、誰もが便利に利用できるよう、地域内・外の公共交通システムを充実させる

具体的な取り組み

- 骨格的な道路の整備・改善（交通量のコントロール、及び高齢者・障害者にも歩きやすい安全な歩道づくり）
- パークアンドライドの充実

- 生活道路の環境整備（特に谷戸部、山際の道等。自然工法等の適用による擁壁整備、緊急車両の通行確保など）
- 住宅地内のメインストリートの緑化（避難路の確保の視点からも）

- 地域間を結ぶ道路の検討
- 稲村ガ崎から極楽寺切り通し方面への道路の整備

- 住民の便宜を図る江ノ電の利便化

目標②

自然を活かした住宅地環境と景観づくり

①周辺緑地は、市民の憩いの場として、また地域の環境と景観を支える土台として、保全・管理と活用の方法を探る

②周辺緑地と調和し共生する、うるおいのある住宅地環境をつくる

③海浜部は、沿道と一体となった、市民にも来訪者にも生物にもやさしい水と緑あふれる環境・景観にしてい

④海・山・川・住宅地の緑をつなぎ、ネットワークをつくり出す

- 身近な緑の保全
- 住環境の保全
- 管理を兼ねた遊歩道の整備等
- 古都保存法以外の法により、谷戸の緑を維持・保全

- 谷戸の低層住宅地の環境の保全と創出
- 地域生活拠点としての機能の充実（商業の集積や地域交流の場など）
- 公共公益施設等の積極的緑化
- 海沿いの住宅地の環境保全と形成
- 緑化を進めるルールづくり

- 鎌倉海浜公園の緑の保全・創出
- 景観形成のルールづくり（景観法の活用等）
- 海岸沿いの店舗・住宅等の景観を整える
- 河川の自然回復と環境改善・親水化、水質の維持・改良
- 海浜部のごみ対策
- 海岸線の保全と環境の向上

- 海沿い、住宅地に緑を創出し、周辺緑地とつないでネットワーク化する

★目標③

防災と福祉のための施設とソフトづくり

①周辺地域と連絡しにくい七里ガ浜の地形に対応した防災（防風・津波・地震）対策を進める

②高齢化に対応した施設づくりとソフトの仕組みを考える

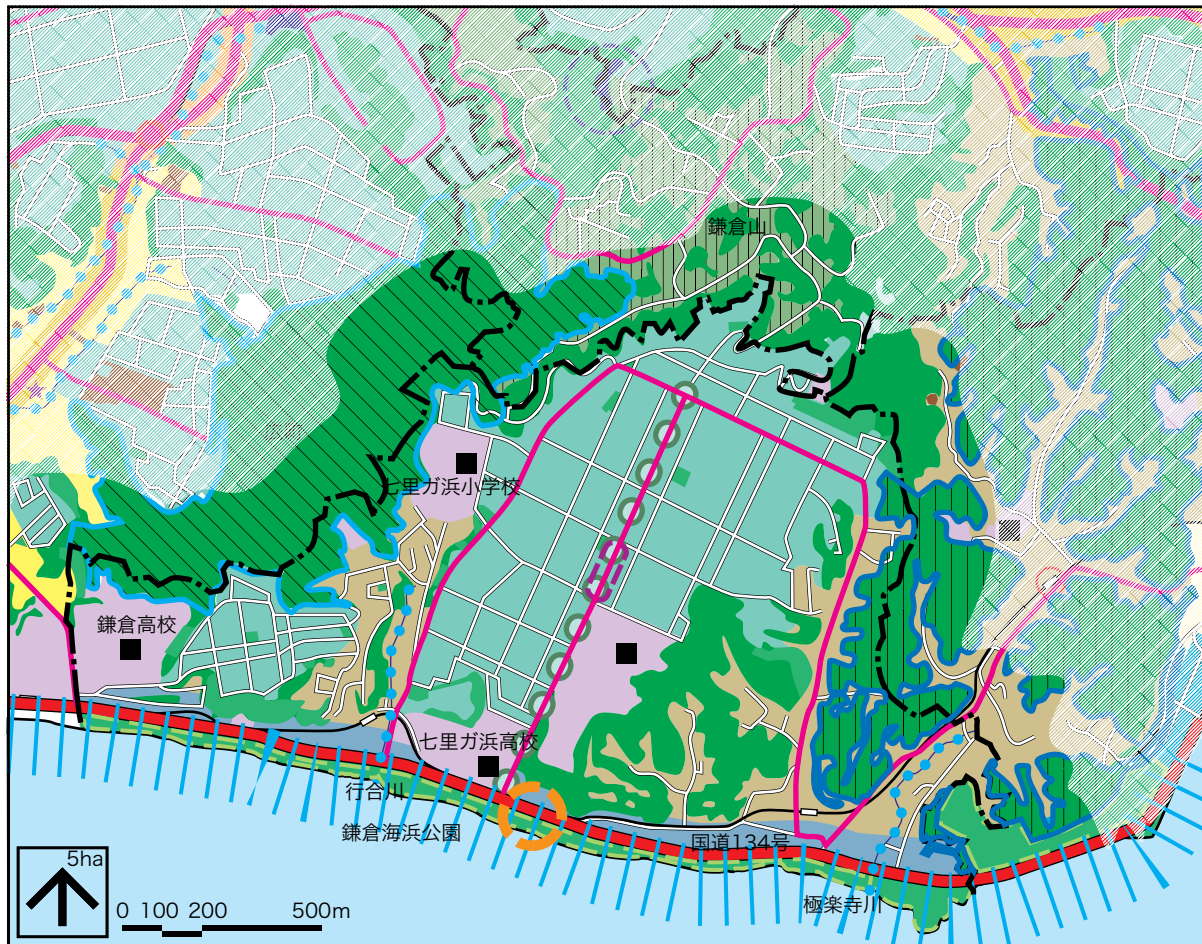
③市民の文化・教育・情報交換活動の拠点として誰もが利用できる施設づくりを進める

- 地域の防災拠点の整備の検討（ミニ防災拠点の見直し等）
- 地域間を結ぶ緊急・救急道路の実現の検討

- 公共公益施設の整備・充実（医療施設、デイケアセンター等）

- 文化レクリエーションの拠点づくり
- 地域コミュニティの充実とその拠点づくり

図 地域別方針……七里ガ浜地域



- | | |
|--|-----------------------------|
| 古都保存法による緑の保全 | 骨格的な道路の整備・改善(国道134号) |
| 身近な緑の保全 | 生活道路の環境改善 |
| 都市公園等の緑の保全・創出 | 住宅地内のメインストリートの緑化 |
| 鎌倉海浜公園の緑の保全・創出 | 海岸線の保全と環境の向上 |
| 広町の緑と周辺の谷戸の自然環境の保全 | 交通需要管理の実施
(パークアンドライド駐車場) |
| 河川の自然回復と環境保全・親水化 | 地域生活拠点としての機能の充実 |
| 谷戸の低層住宅地の環境保全 | 地域の防災やコミュニティ拠点の整備 |
| 丘陵の低層住宅地の住環境の保全 | |
| 海沿いの住宅と観光施設の調和
(海沿いの住宅地の環境保全と形成、海岸沿いの店舗・住宅等の景観を整える) | |
| 公共公益施設等(開放・緑化等) | |

1. 地域の特徴

- 昭和 30 年代を中心に丘陵部に大規模な住宅団地が造成され、人口が急増しました。南側は相模湾に面し、周囲を丘陵が取り囲む市街地構成となっています。
- 七里ヶ浜海岸は景勝地として知られ、マリンレジャーを楽しむ若者でもにぎわっており、海岸に沿って走る国道 134 号沿線には商業施設が点在しています。

2. 主な動向と取り組み

地域別の方針（本編 142 ページ）に掲げる 3 つの目標についての主な動向と取り組みは次のとおりです。

目標 ①

周辺地域との連絡をスムーズにし、安全に歩ける道づくり

- 平成 7 年に江ノ島電鉄によるバス路線（七里ガ浜循環線）が整備されました。

目標 ②

自然を生かした住宅地環境と景観づくり

- 鎌倉市まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画が七里ガ浜自治会（86ha、H10.7）、鎌倉山町内会（90ha、H12.4）から提案されました。
- 海岸沿いに店舗（レストラン等）が増え、観光客やマリンレジャーを楽しむ人々でにぎわいを見せています。

目標 ③

防災と福祉のための施設とソフトづくり

- 七里ガ浜自治会の自主まちづくり計画の中に防災活動への取り組みが盛り込まれています。

3. 重点的に取り組む内容

海に面した丘陵部の大規模な住宅団地の住環境を維持していくために、防災対策や暮らしやすい環境づくりとコミュニティの充実が重要です。

重点

1) 防災対策

- 海に面していることから津波などの災害の危険性があり、災害時に国道 134 号線や江ノ島電鉄線等交通手段が分断されてしまう恐れがあることから、通り抜け道路（避難路としての道路）の確保や防風・津波・地震対策について検討します。

重点

2) 暮らしやすい環境づくりとコミュニティの充実

- 交通の利便性を向上させるなど、だれもが住み続けられるような環境を整え、子どもから高齢者、障害者まで生き活きと暮らせる地域コミュニティの充実を図ります。

ソフト面の取り組み

- 市民による緑の保全運動（ナショナル・トラスト、山林維持管理への協力など）
- 市民・行政の両者による海浜部のごみ対策の工夫
- 地域内の医師のネットワークづくりと住民への周知

検討課題

- 国道 134 号の機能強化
- 極楽寺谷戸部を経て旧鎌倉方面へ至る緊急連絡路の整備
- 七里ガ浜高校付近の江ノ電新駅設置
- 消防署の適正配置について検討
- 救援物資等の海浜への直接輸送の検討